

終わります。ありがとうございました。

○議長（中村 実君）

以上で、保坂議員の質問が終わりました。

14時55分まで暫時休憩といたします。

〈午後2時45分 休憩〉

〈午後2時55分 開議〉

○議長（中村 実君）

休憩を解き会議を再開いたします。

次に、佐藤 孝議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

佐藤議員。〔7番 佐藤 孝君登壇〕

○7番（佐藤 孝君）

日本共産党の佐藤 孝です。

通告書に基づいて、1回目の一般質問をさせていただきます。

1、新型コロナウイルス感染症対策について。

(1) 特別定額給付金について。

- ① 特別定額給付金について、給付者数、給付率はどうなっているか伺う。
- ② 特別定額給付金を申請しなかった人について、その理由の把握はされているか伺う。
- ③ 特別定額給付金のオンライン申請の状況については、どうであったか伺う。

(2) ひとり親世帯臨時特別給付金について。

- ① 令和2年6月分の児童扶養手当の受給者については、申請が不要で口座に振り込まれることになっているが、それ以外の対象者については申請が必要とされている。申請書による給付申請数及び追加申請数は、どのような状況か伺う。
- ② 申請書については、市や厚生労働省のホームページを見てもよく分からない。令和2年6月の手当受給者以外は申請し難くなっているように思えるが、いかがか。
- ③ 飲食業やサービス業等で働く、非正規のシングルマザーが、解雇や仕事の減少で窮地に陥っているという全国報道に幾度か接した。糸魚川市内での実態は、どのように捉えているか伺う。

(3) 新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言や自粛による市内への影響について。

- ① 売上げ減少や将来を危ぶんでの廃業等は、どうなっているか伺う。
- ② 失業者の増加、生活保護申請の増加といった傾向は、現れていないか伺う。
- ③ 雇用調整助成金、緊急雇用安定助成金の利用状況について伺う。
- ④ インフルエンザ流行時期が近づいてきた。新型コロナウイルス感染症とインフルエンザの同時流行に備えた対策は、考えているか伺う。

(4) 新しい生活様式の具体策について。

「新しい生活様式」は、国が国民に求めるだけの5項目となっている。糸魚川市では感染者数が最低限に抑え込まれた状態ではあるが、国内の大都市圏や外国では収束はなかなか見えてこない。以下伺う。

- ① 視覚障害者や聴覚障害者にとっては、マスク着用によって声がかきこもり、また口元が見えず、言葉の判断がしにくくなる。表情も読めず、コミュニケーションが難しくなる。ましてや、人との間隔は最低1メートルと言われている。新しい生活様式を進めるに当たり、高齢者や障害者のコミュニケーション対策を考えているか伺う。
- ② 国連は、自然破壊や気候変動と新型コロナウイルス感染症の関係について警告している。気候変動による大規模災害の連続と新型コロナウイルス感染症等が連動しているとする、座して見ているわけにはいかない。SDGsの17の目標達成を喫緊の課題として取り組むべきと思うがいかがか。

以上、1回目の質問といたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

佐藤議員のご質問にお答えいたします。

1点目の1つ目につきましては、給付世帯数は1万7,321世帯、給付者数は4万1,768人、給付率は99.8%でありました。

2つ目につきましては、把握いたしておりません。

3つ目につきましては、266件でありました。

2点目の1つ目につきましては、申請書による基本給付は21件、追加給付は76件であります。

2つ目につきましては、個別に通知し、申請の呼びかけを行ってまいります。

3つ目につきましては、個別の事情について、実態把握はできませんが、非正規の解雇が数件あるとお聞きいたしております。

3点目の1つ目と2つ目につきましては、今のところ廃業や失業、生活保護申請の増加傾向は現れておりません。

3つ目につきましては、8月28日現在で雇用調整助成金が88社、212件、緊急雇用安定助成金が43社、105件とお聞きいたしております。

4つ目につきましては、高齢者など必要な方にインフルエンザワクチンの接種を呼びかけてまいります。

4点目の1つ目につきましては、障害者理解促進事業において、透明マスク等の購入が助成対象となっております。

2つ目につきましては、市の業務全般がSDGsの取組につながるものと考えており、世界全体で取り組むことが重要だと考えております。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

佐藤議員。

○7番（佐藤 孝君）

2回目の質問に入らせていただきます。

特別定額給付金についてであります。月曜日の市長の行政報告でも聞かせていただいたんですが、そのときには、たしか4万1,770人とお聞きしたような気がしたんですが、今、4万1,768人ということで、金額につきましても41億7,700万円とお聞きしたんですが、これは今回の4万1,768人が正解でしょうか。ちょっとそこら辺をお伺いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐総務部長。〔総務部長 五十嵐久英君登壇〕

○総務部長（五十嵐久英君）

初日の行政報告については、100万円単位ということで10万円以下については四捨五入ということで報告させていただきましたので、それで今ほどの市長答弁の給付人数に10万円を掛けた数字と、初日の行政報告で申し上げた数字が違うという状況になっております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

佐藤議員。

○7番（佐藤 孝君）

了解しました。私、この99.8%から全体の数を計算しましたもので、1名ぐらい違うかもしれませんが、そこは数字1名ぐらい違うかもしれませんが、その数で話させていただきます。

糸魚川市では99.8%、4万1,768人ということであります。100%になると私の計算では4万1,854人なんですけども、853人であるかもしれません。とにかく給付されなかった人数は八十三、四人いるということが分かります。

第2回市議会定例会の市長答弁によりますと、給付対象者数は4万1,809人とお聞きしております。その6月時よりも四十四、五人給付対象者が増えておりますが、その詳細はどのようなものか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐総務部長。〔総務部長 五十嵐久英君登壇〕

○総務部長（五十嵐久英君）

まず、給付率の関係なんですけども、給付率の関係については国への報告の関係で、全世帯に対しての、給付済みの世帯数に対しての給付利率ということで、人数ではございませんので、人数に

対しての給付率ということであれば99.9%となっております。その辺はちょっと説明不足で大変申し訳ございません。

それで、対象の人員ということですが、最終的には4万1,812人ということで、6月の市議会定例会時よりも3名増えております。その内訳としては、4名が27日以前に糸魚川市へ転入していたんですけども、28日以後に届出があったということで、結果として糸魚川市の対象者になったので4人増えたというものと、逆に、対象者だったんですけども、一人世帯の方がお亡くなりになって、給付を受けないうちにお亡くなりになって、対象者としては減というふうにカウントするよというルールでございますので、それで差引き3名の増ということで、4万1,812人で3人の増ということになっております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

佐藤議員。

○7番（佐藤 孝君）

そうしますと44名の方が給付を受けなかったという、そういうことでよろしいですかね。そうしますとその44名の方に、給付を希望しないという方がどんだけおったか。それから、そのほかで連絡がつかなかった人が、その残りになるわけですが、その人たちに対してどのような申請促進対策を取ったか教えていただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐総務部長。〔総務部長 五十嵐久英君登壇〕

○総務部長（五十嵐久英君）

給付できなかった44名のうち辞退と、私は辞退しますよという申出があった方については13名でございました。ですから、給付の意思が分からなくて給付できなかった方が31名ということになります。

未申請の方への対応といたしましては、まず、6月22日と7月17日、その時点での未申請世帯の方に、まずそれぞれお手紙なり、まだ申請を受け付けておりますので、お手紙なり出させていただいて、また、当初の送った申請書も紛失してる可能性もありますので、再交付という形で送らせていただいたというのが1点と。あと7月下旬と8月中旬に、8月中旬というと、もう8月18日までが申請期限ということで、その時点で申請されてない世帯のほうへ、7月末については高齢者の世帯、8月についてはそれ以外の世帯ということで、職員から各そのお宅のほうへ訪問させていただいて、会える方についてはお話しし、不在の方についてはお手紙を置いてきたというような対応を取っておるところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

佐藤議員。

○7番（佐藤 孝君）

私の友人なんですけど、一人暮らしをしている人がいるんですけども、昨年末からずっとドライブ

旅行に出かけておりました、最近になってようやく糸魚川に帰ってきました。昭和の時代の国民的映画の主人公みたいに10か月も音信不通、家は鍵をかけたまま、携帯は持っていない。そういう状態で誰も連絡をつけようがなかったわけなんです。本人は、やっと定額給付金の申請期限に間に合ったと、こう言うておりました。こんな人もいる中での99.9%になるわけですが、この結果につきまして、市の特別定額給付金対策室または担当課では、どのように考えておりますでしょうか、お願いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐総務部長。〔総務部長 五十嵐久英君登壇〕

○総務部長（五十嵐久英君）

市長が初日の行政報告でも申し上げたとおり、給付を希望された方については、全て給付が行ったんじゃないかというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

佐藤議員。

○7番（佐藤 孝君）

大変ご苦労さまでした。

それでは、9月になりまして、全国で爆破予告メールが送られてきたという報道が相次いでおります。コロナで行動が制限されており、ストレスを抱えた人が様々な行動を取って、ストレスを発散させてるように思えます。糸魚川市でも7月27日に庁舎を爆破するというメールがあり、市内を騒がせました。国や自治体のコロナ対策に不満や不公平感を持つ人を、できるだけなくすることが必要だと思われま。

特別定額給付金につきましては、事情があって期間内に申請できなかった市民が名のり出た場合、市独自に救済措置を取るといような考えはございますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐総務部長。〔総務部長 五十嵐久英君登壇〕

○総務部長（五十嵐久英君）

先ほど申し上げたとおり、給付の希望がある方については、基本的には全て給付できたというふうには考えておりますけども、もし、先ほど議員申し上げられたような方がいらっしゃいましたら、よくその方の事情をまずお伺いさせていただいて、どうするかについてはその方のそれぞれの事情によって、また対応してまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

佐藤議員。

○7番（佐藤 孝君）

市民の不公平感とか不満をなくするために、そういうことがありましたらよろしくお願ひしたいと思ひます。

次ですけども、保坂議員の質問とちょっとダブりますけどもよろしくお願ひします。

特別定額給付金は、4月27日時点で住民基本台帳に記載されている人が対象でありまして、その日以降に生まれた新生児は、給付対象ではありません。

一方、新型コロナは収束傾向と拡大傾向を繰り返しておりまして、終わりが見えておりません。新型コロナで新しい生活様式を求められるのは、4月27日以前に生まれた子供も、それ以降に生まれた子供も変わりありません。

隣の妙高市では、4月28日以降に住民登録された子供たちには、市独自で1人10万円の給付をすると、こういうことを決めました。糸魚川でも、ぜひ検討してほしいとは思ひます。答弁は先ほど聞きましたので、検討していただきたいと言うしかしようがありませんが、お願ひいたします。

これもダブりますけれども、政府は地方創生臨時交付金の使い道として、特別定額給付金の対象とならなかった新生児に対して、自治体が独自に行う給付金の財源とすることを容認しております。これも先ほど保坂議員が言ったとおりであります。子育て世帯に不公平感をもたらせないためにも考えていただきたいと思ひます。先ほどの答弁と一緒にかもしれませんが、ひとつよろしくお願ひします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

先ほどの保坂議員にお答えしたとおり、現行制度の拡充を含めて検討してまいりたいと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

佐藤議員。

○7番（佐藤 孝君）

よろしくお願ひいたします。

オンライン申請なんです。これはマイナンバーカードの普及を目的の1つに行われたものと思ひます。高齢者がカードをつくっても、オンライン申請は敷居が高かったであろうと思ひます。暗証番号というハードルがあり、その上にパソコンやカードリーダーが必要だったりして、ストレスがたまった人も多かったのではないかと思ひますが、担当課のほうはどう感じましたでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐総務部長。〔総務部長 五十嵐久英君登壇〕

○総務部長（五十嵐久英君）

今回のマイナンバーカードを通じたオンライン申請につきましては、申請する側からすると、ご利用された市民のお声を聞くと、やはりスマホの機種によってなかなか申請までにたどり着けなかったり、また、申請ボタンを押しても申請したかどうか分からないために何回か申請したりというようなお話をお聞きしております。そういう意味では、少しまだまだ、今回、定額給付金自体が急

遽決まった制度ということなので、システム自体がこなれていないシステムだったのかなというふうには思っております。

また、私らのほうの給付する側という立場でいいますと、今ほど申し上げましたように何回も申請しても受け付けるシステムなので、そのオンライン申請が本当に初めてなのか、前が間違っとして2回目を送ったものなのかというものを一々確認しなければいけないシステムというもの、そういう点と、もう一点、郵便方式の場合は市のほうから送付させていただきましたので、家族の構成等については、ほとんど確認しなくて、送っていただいた添付書類等をチェックすれば、それで給付のほうへ進めたのでございますけども、オンライン申請の場合については、やはり今回、世帯単位でということでしたので、世帯の方が全員入ってるのかどうかをまずチェックする必要があるということで、そういう意味では先ほど申し上げたように、少しこなれてないシステムだったのかなというふうには感じております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

佐藤議員。

○7番（佐藤 孝君）

これもご苦労さまでした。ちょっと離れるかもしれませんが、コロナ禍での経済対策とマイナンバーカードの普及を目指したものと思うんですが、ポイント還元事業、マイナポイントが始まっております。マイナンバーカードの普及のために国の税金2,478億円、これを使って、カードを持たない人や持っていて使えない高齢者にとって全く恩恵のない制度、これが始まるわけです。国民・市民に不公平感とストレス感を増やす可能性が高いと思うんですが、いかが考えますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺市民部長。〔市民部長 渡辺成剛君登壇〕

○市民部長（渡辺成剛君）

お答えします。

マイナポイントにつきましては、今、高齢者の皆さんも窓口にお越しただいて、手続とか、あるいは相談にお越しただいているところでございます。私ども窓口におきましては、できるだけ丁寧に分かりやすい説明を心がけているところでありますが、いずれにしましても、高齢者の皆さんにも恩恵が与えられるような丁寧な説明・対応をしてまいりたいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

佐藤議員。

○7番（佐藤 孝君）

できるだけよろしく願いいたします。

（2）に行きたいと思います。

ひとり親世帯臨時特別給付金についてです。これは児童手当、児童扶養手当とひとり親世帯臨時特別給付金、この支給対象者についてなんですけど、ちょっと私よく分からなかったものですから確

認させていただきます。

児童扶養手当は、公的年金を受けていると一部または全額停止される場合がある。また、所得が一定額以上ある場合にも、児童扶養手当は一部または全額支給停止される。

ひとり親世帯臨時特別給付金のうち基本給付は、児童扶養手当受給世帯はもちろん、公的年金受給額が多く、児童扶養手当が全額停止されている世帯にも対象所得水準となれば支給される。また、所得が多く、所得制限により9月分の児童扶養手当を支給されていない世帯でも、コロナの影響で家計が急変して、収入が児童扶養手当受給世帯と同水準に落ち込んだ場合には支給される。

追加給付についてですが、6月分の児童扶養手当受給世帯及び公的年金等の受給により、児童扶養手当が停止される世帯で、コロナの影響で家計が急変、収入が減少した方には追加給付を行う。

こういう理解でよろしいでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

今、議員おっしゃったとおり、制度の概要はおっしゃるとおりであります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

佐藤議員。

○7番（佐藤 孝君）

ひとり親世帯にも申請必要な場合と申請が不要な場合とあるわけなんです、申請が必要な世帯については、私は申請書というのはホームページのそういうところにあるのかなと思ったんですが、厚生労働省にも市のホームページにもございませんでした。そこら辺の、私には分からなかったんですが、そこら辺どうなっているか教えてください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

申請が必要な対象者になる可能性のある世帯については、申請書を既に送付をしております。個々に申請書を送らせていただきましたので、ホームページには申請書は掲載しておりませんでした。万が一のことを考えまして、ホームページにも申請書を、様式を添付させていただいたところあります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

佐藤議員。

○7番（佐藤 孝君）

申請って書いてありますと、個人的に申請しなきゃいけないのかなと思ったんですが、市のほう

で対象者に、個々に丁寧に対応されているということで理解いたします。

ところで、申請が必要な対象者が、申請書をホームページでは見つけることができなかつたんですが、受給拒否の届出書はホームページでしっかりダウンロードできました。特別定額給付金の申請書に給付金不要の人は、バツ印をつけるような四角がありまして、違和感を覚えたのを思い出しましたが、受給拒否の届出書を提出した方もおられたものでしょうか、お伺いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

受給拒否の方につきましては、現段階で提出した方はいらっしゃいません。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

佐藤議員。

○7番（佐藤 孝君）

9月1日に総務省が発表した7月の労働力調査によりますと、非正規労働者数は前年同月比で131万人減少しています。コロナが広がりを見せた3月から、前年同月比はずっとマイナスが続いておりますが、5月に一旦、減少傾向が少し収まったんですけども、その後、激増しまして7月は男性が50万人減少、女性が80万人減少、合わせて非正規労働者は131万人減少しています。産業別では、宿泊・飲食業が最大の減少数で22万人となっています。コロナの影響でシングルマザー世帯の生活の悲惨さは、新聞やインターネット情報を見ても想像を絶するものがあります。ひとり親世帯臨時特別給付金については、追加給付が1回ありますが、その後はありません。市としても、今後も実態を把握してもらって、様子を見ながら対策を考えてほしいと思いますが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

ちょうどこの8月、先月が児童扶養手当の現況届の時期でありました。現況届を提出しに市の窓口へ来たお客様に、何か困ったことはないかというようなことでお聞きしております。総じて、今すぐどうのというような問題はなかったんですけども、口々に、やはりこの状況がいつまで続くのか、また、ご自身やお子さんがコロナに感染したときはどうすればいいのかというような不安の声が聞かれたところであります。

新型コロナに限らず不安なときは、いつでもご相談くださいというようなことを伝えておりますし、引き続き相談しやすい環境づくりを意識しながら、実態の把握に努めていきたいと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

佐藤議員。

○7番（佐藤 孝君）

どうかよろしく願いいたします。

（3）の新型コロナ緊急事態宣言や自粛による市内の影響についてであります。①、②に関連してありますが、市内ではコロナ由来の廃業、失業者の増加、そういうものは現れていないということであります。ハローワーク糸魚川発行の最近の雇用・失業情勢を見ますと、パートを含む全数、この有効求人数の変化を見ますと昨年7月は930人ありました、求人です。そこから主に下がり続けまして、今年5月には545人と59%にまで下がりました。その後、2か月後の7月で668人と増加いたしまして、1年前の有効求人数の72%まで回復しております。持ち直しております。この変化をどう見ますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

雇用情勢につきましては、季節性があるため前の月ではなくて、前年の同月比で増減が判断されてるところでありまして、糸魚川管内の有効求人数は、前年同月比11か月連続で減少している状況であります。7月には有効求人数が一時的に上昇しているものの、7月の雇用・失業情勢につきましては、ハローワーク糸魚川にお聞きしましたところ、パートを含む全数について、求人が求職を上回って推移しているものの、求人の動きが弱く、引き続き、新型コロナウイルス感染症が雇用と与える影響に十分注意する必要があるとのことであります。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

佐藤議員。

○7番（佐藤 孝君）

同じなんですけども有効求職者数、これを見てみたんですが、これも今年2月の505人を頂に下がり続けて、7月には346人まで減少しています。就職されたのか諦めたのかは分かりませんが、結果、失業者は少なくなり、有効求人倍率は、2月の1.48倍から5月に1.3倍、そこまで下がったんですが、7月には1.98倍まで上昇して回復しております。全体的には雇用情勢は4月、5月からは改善の方向にあるように思えるんですが、そこら辺改善の方向にあると考えていいのか、ちょっとそこら辺の判断を伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

先ほどとも同じ考え方になりますが、雇用情勢につきましては、季節性があるため前年同月比で増減が判断されておりますので、糸魚川管内の有効求職者数は、前年同月比8か月連続で減少して

推移してきておる状況であります。このようなことから、今後とも新型コロナウイルス感染症が、雇用と与える影響について十分注意して、見ていく必要があるというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

佐藤議員。

○7番（佐藤 孝君）

廃業も失業者の増加も現れていないということでありましたが、ハローワーク糸魚川の最近の雇用・失業情勢の中にパートタイムに限った集計があります。これを見ますと有効求人数が3月から6月までの間、前年同月比50%ほどに3か月とも落ち込んでおります。有効求職者数は、2月、3月、4月と前年同月を上回っています。仕事を求める人が多いということでありまして。

結果、4月、5月、6月の有効求人倍率は、1倍を切っております。厳しい状況だったと思えます。このパート労働者には、コロナで大きな影響を受けた宿泊・飲食業等が含まれているのではないかとと思いますが、いかが考えますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

市長の答弁のとおり、非正規の解雇につきましては、数件ございますので、ここに含まれている可能性はありますが、ハローワークによりますと4月から7月までの事業主都合での解雇ですとか雇い止めの数は64人であり、ただ、昨年同期に比べて11人減少している状況であります。このようなことから、現在のところ、市内での新型コロナウイルス感染症の失業への影響は少ないと考えておりますが、引き続き状況を注視していく必要があると考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

佐藤議員。

○7番（佐藤 孝君）

課長は答えられませんでした。飲食業、宿泊・飲食業がパート労働者のほうに含まれているのが多いんでないかなと考えております。このパート労働者につきましても、7月には有効求人数が増えて、有効求職者が減ったこともありまして、求人倍率は1.34倍まで上がってきておりました。元気応援券やなんかの効果もあるのかなと思えますが、コロナ感染に気をつけながら、パート労働者の雇用動向を注視する必要があると思えます。よろしく願いいたします。

④です。これも保坂議員とダブりますが、よろしく願いします。

インフルエンザとコロナの同時流行対策であります。インフルエンザワクチンにつきましては、副作用・副反応と言うようですけれども、確率は少ないですが重篤な副反応が見られることがあるということでもあります。

しかしながら、2つの感染症は症状がよく似ていて、同時流行があった場合を考えて、インフルエンザ予防接種の助成を拡大する市町村が増えてきました。糸魚川市でも、インフルエンザ予防接種を希望する人には全員助成して、市民とともに病院、医療機関を守る。また、救急車などを運転

する消防署の職員も守る必要があると思いますが、この点いかがでしょうか。お願いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

感染症予防と同時流行による医療現場の混乱を回避するため、ご提言のインフルエンザ予防接種は有効であるというふうに認識しております。

しかし、国で確保するワクチンの量というのは限りがあって、国民の約50%程度、それから全員に接種するワクチンはないわけであります。このため、高齢者でありますとか重症化する基礎疾患のある方など、まずは接種を必要とする方が優先的に確実に接種する。このことが最も重要であるというふうに認識しております。したがって、補助対象を拡大した場合、必要とする方の接種の妨げになるという心配がありますことから、今のところ補助対象の拡大というのは考えておりません。

しかし、必要とされる方への優先接種、優先的接種というのは呼びかけていきたいというふうに考えておりますことから、既存対象者への補助額、こういうものの拡充については、今後の検討課題とさせていただきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

佐藤議員。

○7番（佐藤 孝君）

ワクチンの量がないとなると、どうしようもないことです。こういう中で新潟県でも粟島浦村、出雲崎町、五泉市、こういうところでは希望する人には全員補助するというような、そういうのが出てますんで、状況を見て、もし可能だったら検討していただきたいと思います。

それから（4）ですが、新しい生活様式の具体化についてであります。

視覚障害者についてですが、視覚障害者は、つえとか盲導犬、人の肩を借りたり、手をつないでもらったりして外出することが多いと思います。人との間隔を2メートル、最低1メートルを守るのは難しいと思います。エレベーター等では、点字ボタンを触る必要もあって、他人の目があって、なかなか外出しづらくなると思います。健常者と視覚障害者が気軽に声を掛け合って、お互いを守る、そういう気風をつくる以外に方法はないんじゃないかと思います。都会では、そういった環境をつくるというのは非常に難しいと思いますけども、糸魚川では頑張れば、そういう気風をつくることは可能ではないかと思いますが、その辺いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

嶋田福祉事務所長。〔福祉事務所長 嶋田 猛君登壇〕

○福祉事務所長（嶋田 猛君）

コロナ感染症の中、視覚障害者からは買物等におきまして、店員などに商品を取ってくださいなど頼みにくくなったという声も伺っております。コロナ感染への心配から、障害者への合理的な配慮が行いにくくなってるとも感じております。ソーシャルディスタンスを守り、感染を予防するこ

とは、もちろん大切であります、それによりまして健常者と障害者の心の距離までも遠く離れることは避けなければならないと考えております。新しい生活様式の中で、心の距離を縮めるためにも市民の方々に対し、障害者への声かけなど、合理的配慮に基づいた支援を周知してまいりたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

佐藤議員。

○7番（佐藤 孝君）

どうぞよろしくお願いいたします。糸魚川が、そういう人と人とのつながりを優しい関係でやっていけるまちになれば、また糸魚川のイメージも上がると思いますので、よろしくお願いいたします。

それから、聴覚障害者についてですが、重度の人に対しては手話通訳の人に口元の見える合成樹脂製の透明なマスクを使って、口の動きも判断材料にしながらかommunicationを取るしかないかもしれませんが、距離40センチ以上離れた会話が理解できない難聴者は、障害者6級と認定されて、補聴器購入に補助が出ることになっております。新しい生活様式では、基本2メートル、最低1メートルの距離を保つこととなっております。新しい生活様式によって、多くの高齢者が声による意思疎通ができなくなるおそれがあると思いますが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

嶋田福祉事務所長。〔福祉事務所長 嶋田 猛君登壇〕

○福祉事務所長（嶋田 猛君）

1メートル以上のソーシャルディスタンスを保つために身体障害者手帳をお持ちではなく、補聴器を購入されていない軽度、また中度難聴の高齢者にとりましては、意思疎通が難しくなる場合もあると思います。そのためにマスクをつけていても大きめの声でゆっくり話す。また、身ぶりや手ぶりを交えて話すなど、そのほか写真であるとか絵を用いて会話を補うといった配慮が必要になるかというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

佐藤議員。

○7番（佐藤 孝君）

手話という手もあるんですけども、高齢者には手話を覚えるというのは非常に大変だと思います。補聴器につきましても、全国で必要とする人には補聴器の助成をするようなところが出てきておりますので、今までの議会でも何人かの議員からお話ありましたが、ぜひともそこら辺も検討していただきたいと思いますが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

嶋田福祉事務所長。〔福祉事務所長 嶋田 猛君登壇〕

○福祉事務所長（嶋田 猛君）

身体障害者手帳の対象とならない、例えば高齢者の軽度・中度難聴者にとりましては、人とのコミュニケーションが取りにくくなったことにより、例えば認知症への影響といったことも出ております。そういった方々への補聴器の助成等につきましては、今後、他自治体、また国の補助制度等も鑑みながら検討してまいりたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

佐藤議員。

○7番（佐藤 孝君）

子供さんへの補聴器補助というのは、結構進んでるようなんですが、高齢者に対してもぜひとも検討していただきたいと思います。

②に移ります。

新型コロナウイルス感染症は、コウモリから人への感染から始まったとも言われています。動物由来感染症、ズーノーシスと呼ばれております。ズーノーシスは、自然環境と密接な関係があり、環境破壊が続けば、ますます新たなズーノーシスを呼び込むことになると言われております。エボラ出血熱、エイズ、マーズ等、皆、昔はなかった感染症です。

市民部長に伺います。このような記事や報告がインターネットや国連からも出されておりますが、これについてどう感じておられますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺市民部長。〔市民部長 渡辺成剛君登壇〕

○市民部長（渡辺成剛君）

お答えします。

今、野生動物が感染症の発生源といった報道のお話されましたけども、市内におきましても野生動物が、人が住んでいる地域に出没するという状況があり、有害鳥獣捕獲がどんどん、どんどん増えているという状況であります。これはやはり地球温暖化が、気候変動に影響を与えているものだと思いますし、これには糸魚川市もそうですし、日本・世界が一丸となって持続可能な開発目標に対して取組を進めていくべきだということだと思いますし、それを意識した取組をしていかなければならないというように感じております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

佐藤議員。

○7番（佐藤 孝君）

気候変動ですが、シベリアで6月に平均気温が20度だそうですが、平均気温よりも18度も高い気温38度を記録し、永久凍土が溶け出す心配がされております。永久凍土が溶け出すと、地面が熱を蓄えるようになり、温暖化はさらに進み、環境破壊が加速され、新たな感染症の発生が誘発されることが、可能性が高まることとなります。日本でも、年に何回も豪雨による大災害が起きていまして、ここ10年間を振り返ってみても急激に大規模災害が増えてるような感じます。世界の温暖化は、予想以上のスピードで進んでるようであり、同時に、新しい感染症が次々と発生し

ているように思いますが、いかがに思いますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

お答えします。

確かに議員が言われるように世界温暖化、昨日も県内でも三条市でしょうか40.7と非常に高温で今台風も接近しておりますけども、大変な環境の破壊というのは起こってるのかなというふうに思います。そういった意味で、先月の地域医療フォーラムでも富山大学の先生がおっしゃってました。新たな感染症というのは、やっぱり今ウイルスに対するワクチンを作ったとしても、またそれに耐え得る耐病性といえますか、耐え得るウイルスが出てくる。そういった中で、我々自身の変化をしていかなければいけないというようなことも言われてました。

そういった意味で今、国が示しているような新しい生活様式の実践というのは、そういった意味を含めて深い意味があるのかなというふうに思いますので、これを機会にやっぱり我々の変化というものも新しい生活様式に基づいた我々の行動の変化というのもしていかなないと、なかなか持続可能性というのは難しいのかなと思います。

そういった意味で、またSDGsの話に戻りますが、持続可能な開発目標というのは、国連で決めたものであります。やっぱり一人一人が実践していくという姿勢が大事だというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

佐藤議員。

○7番（佐藤 孝君）

日本では、夏の平均気温は、この40年間に1度上昇したと言われております。気温が上昇すると空気の飽和水蒸気量はその分だけ大きくなりまして、また海水温についてですが、海水温が高いほど水蒸気になりやすい、そう思いますが、日本近海の海水温は、100年間に1.1度上がってるそうです。これは世界全体の海水温上昇が、100年間に0.55度であると言われていているのに対して2倍以上の上昇量であります。豪雨の材料が、空気中にたっぷりと蓄えられる条件が整ってきたと言えます。

日本は、周りを海に囲まれていて、海に守られているように私は思ってましたが、その海が世界の2倍以上の速度で温暖化しているとなると、世界の気候変動の先進国にもなりかねません。偏西風の蛇行の問題も絡んで、温暖化は5年先、10年先さえどうなるか予想できないような状態に思えます。気候変動や自然破壊由来の新型感染症を発生させないためにも、生活環境を守る活動は、自治体も国も、世界中の国々とともに喫緊の課題として取り組むべき人類に与えられた課題だと思いますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

確かに議員の今言われたとおりだと思います。やはり一人一人の行動が、非常に大事だというように思います。そういった意味で、今の状況をしっかり我々が把握して、何ができるのか、そういったことを認識して、行動に移していく、そういったところが大事だというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

佐藤議員。

○7番（佐藤 孝君）

SDGsにつきましては、持続可能な開発目標と略しているようであります。今まで持続不可能な無秩序な開発を続けた結果が地球温暖化であり、ズーノーシス、動物由来感染症の発生の増加につながったものと思います。これからは、持続可能な開発目標の文字のうち、開発よりも持続可能に重点を置いた17の目標に焦点を当てた取組を進めていきたいと思うわけであります。

市長が先ほど言われたとおり、糸魚川は自然に恵まれたところだと私も思います。でも今年は、私は異常を感じております。梅雨明けが遅かったからかもしれません。私の住んでいる地域では、アブラゼミの声に悩まされることがありませんでした。耳が悪くなったせいかもしれませんが、この夏、ヒグラシの鳴き声は全く私の地域では聞こえません。ミンミンゼミは、たまに私が通る範囲では鬼伏で聞くことがありますけど、ほかではほとんど聞いたことがありません。これは一体どういうことを意味するのか、これを私は今気にかけております。この温暖化には、みんなでもって注意していかないとと思います。よろしくお願いします。

これで、私の一般質問を終わります。

○議長（中村 実君）

佐藤議員の質問が終わりました。

関連質問はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

関連質問なしと認めます。

本日はこれにてとどめ、延会といたします。

大変ご苦勞さまでした。

〈午後3時50分 延会〉